

診療情報学

日本診療情報管理学会 編

＜書評者＞ 岩崎 榮 (NPO 法人卒後臨床研修評価機構専務理事)

医療情報に関する待望の書が刊行されたと言っても過言でない。わが国にはこれまで医療情報、とりわけ診療情報の体系的な学問の書はなかったと言ってもよい。いまわれわれ医療界、いや医療界だけではなくすべてが情報の渦のなかにいる。とりわけ病院はそうである。今回の本書の出版にあたって、多大な貢献をした編集責任者の大井利夫は、その序論の中で、「ともすると、データは多いが、真に伝えるべき情報の少ない DRIP Syndrome (Data-Rich-Information-Poor Syndrome) に陥っていることはないだろうか」と言っている。そのうえで、「患者の医療への有用性とデータベース化された情報の活用は、診療情報の必要性を表している」とまとめることができるであろう (中略)。『診療情報』の諸問題について現時点における統一した見解をまとめることは意義深いことであり、長年の念願でもあった。その意味では、本書は日本診療情報管理学会にとって夢の実現といえなくもない」と感慨深げに述べている。本書は、まさに夢の実現にふさわしいものとなっていて絶賛に値する。

この日本診療情報管理学会の生みの親でもある日本病院会からは、数多くの診療録についての専門学校や短大などの病歴管理コースで用いるテキスト的なものが出版されており、その多くは病歴室で用いられる実用性の高いハウツーものであった。また、医学書院から古くは『診療録管理の実際』(津田豊和, 1966) があり、『診療情報の管理』(拙著; 監修, 1988) がある。診療録の書き方、POS に関することは本書でも取り上げられているが、同じく医学書院からの日野原重明による名著といわれ今日においても読み継がれている『POS—医療と医学教育の革新のための新しいシステム』(1973)、それに続く、『POS の基礎と実践』(1980) は今回の本書の出版に、そして今日の各病院で活躍している診療情報管理士に多大の影響を与えているに違いない。

本書は「Ⅰ・診療情報学総論」から始まり、「Ⅱ・診療情報の価値を高めるためのシステムと評価(診療情報学と応用)」, 「Ⅲ・診療記録の種類と記載法」の3編からなり、全編を通してよく整理されていて読者(医療情報を学ぶ者)にとって利便性の高いものとなっ

ている。またどこから読んでも読みやすく“学”という堅苦しさがなく、その意味では、読み手、ことに診療情報を学ぶ人の立場に立った編集であり、執筆となっている。このことから一般の人からも近づきやすい読み物となっている。ことに医療についての情報を提供するマスメディアの方々にも目にしてもらい、正しい医療に関する情報を流してほしいものである。

これほどまでに幅広い医療情報を解説した本はこれまでに知らない。「診療情報のすべて」が懇切丁寧に述べられているが、診療の域を超え医療全般の情報が章ごとに簡潔でわかりやすい文章で記述されている。そのことがまた本書の売りでもある。そういう意味からは改訂されるときには、ぜひ、「医療情報学」という書になることを希望しておきたい。

ともあれ、医療人すべてのための必携の書であるばかりか、すべての医療系の大学、情報系の学校において教科書として使用されて初めて本書が生かされるものとして強く推挙する次第である。

●B5 頁 456 2010 年
定価 8,400 円
(本体 8,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-01083-2]
医学書院 刊